

連載エッセイ
essay

第9回

1年目の勤務を 終えて



たかはし かずき
高橋 和樹

(一財)
砂防・地すべり技術センター
総合防災部 技師

本稿を執筆時点で、私が砂防・地すべり技術センターに入社してから1年と半年が過ぎようとしている。慌ただしかった1年目を終え、少し落ち着いてきた現在（2年目）との違いや社会人となって私が感じたことを記したいと思う。

まだ私が小学生低学年の頃、働く大人は全員が礼儀正しく一生懸命家族や社会のために働いていると素直に信じていた。それが中学、高校、大学と進学していく内に、そうではないことに気がつきはじめる。何か大きなきっかけがあった訳ではなく、それは日常のワンシーンや両親との会話、友達との遊びの中で時々顔を見せる。ぶつかっても謝らない大人、「もう高校生なんだから」という母親、海外留学するという同級生、お年寄りに席を譲る小学生。成長する、もしくは大人になるというのは、何をもってしていえるのだろうか。昨日できなかったことが今日できるようになる、というのは間違いなく成長といえるだろう。過去の経験から初めての事柄に対しても相応に対応できる、というのも成長だといえる。では、「大人になる」とは一体どんなことを指すのだろうか。

新世紀エヴァンゲリオンというアニメをご存じだろうか。そのアニメでは、幼稚な態度を繰り返す主人公碇シンジに対して父親のゲンドウが「大人になれシンジ」と諭すシーンがある。主人公がどのようにして大人となるかは是非映画などで確認してもらいたい。ここで大事なことはいくつかあるが、一つに子供は大人になることを少なからず周囲から期待されているということである。ここでの期待は環境によって様々ではあるが、一般（論）的には社会人として何か職を得て働くことを意味することが多

いだろう。では、就職して職業を得れば大人といえるのか。主人公碓シンジは物語を通じて子供から大人へと成長するが、彼は物語中で何か職業を得ることはない。小学生の頃に大人になったら何になりたいかという作文やアンケートが課されることがある。この時に夢見た職になれる者は少ないが、クラスほとんどの人が何かしらの職を得て大人へと社会人へとになっていく。果たして彼や彼女ら、そして私は大人になったという自覚はあるのだろうか。

私が砂防センターに就職する前にある方に、社会人と学生で違うことは何かと聞かれた。その時の私は責任であると答えた。なぜなら両親の庇護下にある学生とは異なり、自らの一挙手一投足が社会の目にさらされ、その評価を元に給料が支払われると考えたためだ。しかし、今ではこの考えはあまり正しくないと感じている。というのも給料という報酬に対して働くということは当然のことであり、そこに大人か子供かはあまり関係が無い（あるとしたらアルバイトしている高校生は全員が大人になってしまう）。責任というのは仕事に付随するものであり、その対価は報酬（給料）という形で表現されている。よって責任が生じたからといって、大人になったとは必ずしもいえないのではないだろうか（大人になれば責任が増えるとはいえるかもしれないが）。

私がこの一年半で最も重要だと感じたことは、他者や物事への気遣いであると思う。メールの際にどんな文章を書けば、失礼がなく相手に正しく伝わるか。先輩に相談したいが、今は忙しくないだろうか。次の会議ではどんな資料をどの程度用意すればいいのかなど。仕事を進める上では相手の状況や立場に立って、どうすれば理解してもらえるか、どんなことをやって欲しいのかなどを考える必要がある。もちろん仕事をするための知識や経験、技術も大事ではあるが、それらは今すぐに身につけることは難



現地調査の様子

しい。特に技術力は、日々の情報収集や勉強を現場や業務で繰り返し実践することでようやく身につけることができるのではないかと思う。しかし、日常でのちょっ

とした気遣いは今からでも始められる。朝の挨拶や資料を取りやすいようにまとめたり、現場で率先して動いたりなど様々考えられるが、1年半を振り返り私がこれらを意識して取り組めたかということ、反省すべき所もあると感じている。

先に大事なことは気遣いだと述べたがこれは年齢（立場）によって変化すると思う。入社1-2年目の現状では、圧倒的に経験や知識が足りないことを痛感させられた。そんな足りない中で今できることといえば限られてくるが、これから3年4年目となると話は変わる。ここからは、これまでの知識や経験から積極的に自らが考えて仕事に取り組むことを求められる。そのために学ぶことや身につけるべきことは多くあるが、他者や物事への配慮や感謝を忘れずに、邁進していきたいと思う。それが大人になることだと信じて。